



平成20年4月1日

各 位

会社名 日清オイリオグループ株式会社
代表者名 取締役社長 大 込 一 男
(コード番号 2602 東証・大証第1部)
問合せ先 財務部長 太 田 良 猛
(TEL 03-3206-5653)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年11月8日の中間決算発表時に公表した平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	298,000	7,700	8,000	3,300	19円11銭
今回修正予想(B)	299,600	3,800	4,200	1,500	8円69銭
増減額(B-A)	1,600	△3,900	△3,800	△1,800	△10円42銭
増減率(%)	0.5	△50.6	△47.5	△54.5	—
(ご参考) 前期実績(平成19年3月期)	241,668	7,835	10,234	6,202	35円91銭

2. 当期の個別業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	200,000	7,100	8,000	3,800	22円00銭
今回修正予想(B)	193,400	2,700	3,500	600	3円47銭
増減額(B-A)	△6,600	△4,400	△4,500	△3,200	△18円53銭
増減率(%)	△3.3	△62.0	△56.3	△84.2	—
(ご参考) 前期実績(平成19年3月期)	162,621	6,538	7,228	3,203	18円54銭

3. 修正の理由

(1) 個別業績

製油関連事業の主要原材料である大豆、菜種、パーム油の価格は旺盛な油脂需要に支えられ上昇が続きました。期末には調整的な動きはありましたが、投機資金の流入などにより史上最高値を更新するなど、総じて過去にない高水準で推移いたしました。また、原油価格も同様に高水準を維持し、燃料費や資材費などのコスト負担がより一層大きくなり、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境下において、当社グループでは販売価格改定に鋭意取り組みましたが、度重なる改定交渉を強いられたうえ、浸透に時間を要していることもあり、当初見込んでいた利益の確保には至りませんでした。また、穀物相場が期末に調整的な動きをしたことや、為替相場も円高水準で推移したため、原材料の低価法評価損を計上することとなりました。一方で、経費圧縮を徹底し削減に努めましたが、コスト負担が大きく、営業利益、経常利益を減額修正することとなりました。

当期純利益の減少につきましては、上記に加え、日本と同様に原材料価格が高騰するなど厳しい環境下にある中国の子会社に対して、これまでの業績や財務の状況を勘案し、引当金を積み増したことが主な要因です。

(2) 連結業績

営業利益、経常利益につきましては、主として個別業績の落ち込みが修正の理由です。

なお、当期純利益につきましては、個別決算で計上した子会社に対する引当金は連結決算上消去されるので、個別より減少幅が小さくなっております。

なお、当期の配当につきましては、当初の予定を変更せず、期末1株当たり5円（年間10円）を実施する予定であります。

※上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したもので、実際の業績は、今後様々な要因によって上記予想数値と異なる場合があります。

以 上